

病気を知るミニブック

mitsuba

みつば

肺がんを知ろう。



MINI BOOK
SERIES

07

独立行政法人 国立病院機構

大阪医療センター

肺がんを知ろう。

知らずに高めているかも、肺がんリスク

「肺がん」って、どんな病気？

肺がんは、気管や気管支、肺胞の細胞が“がん化”した病気です。進行すると周囲の組織へ広がり、リンパ節や反対側の肺、胸膜、骨、脳などへ転移することがあります。日本ではがんの中でも死亡率が高く、重要な健康課題となっています。

肺がんは大きく「小細胞肺がん」と「非小細胞肺がん」に分けられます。小細胞肺がんは進行が速いのに対して、非小細胞肺がんは比較的ゆっくりと進行し、全体の80～85%を占めます。

主な初期症状

- せき・痰
- 血痰
- 息切れ
- 呼吸困難
- 発熱



せき・痰



息切れ

主な原因

■ 喫煙（受動喫煙を含む）

最も大きな原因で、喫煙量が多く、期間が長いほどリスクは高くなります。

■ 体質・遺伝（家族歴）

家族に肺がんの人がいる場合、発症しやすい傾向があります。

■ 環境（有害物質など）

アスベストや排気ガスなどに長くさらされることも原因のひとつです。

どんな治療法があるの？

肺がんの治療は、がんの種類や進行の程度、年齢などを考慮して総合的に決定します。主な治療は、手術、薬物療法、放射線治療の3つ。早期では手術が選ばれることが多く、進行している場合は薬物療法と放射線治療を組み合わせで行います。

■ 新たな薬物療法「がん免疫療法」

近年は、薬物療法の一つである「がん免疫療法」が注目されています。これは、がん細胞によって抑えられた免疫の働きを回復させ、自分自身の免疫の力でがんを攻撃する治療法です。なかでも「免疫チェックポイント阻害薬」が広く用いられています。

■ 非小細胞肺がんの病期と治療方法

臨床病期 (ステージ)	治療方法
I	手術→化学療法 (IA期は手術単独)
II	手術→化学療法
III	手術→化学療法 化学療法→手術 化学療法+放射線療法
IV	化学療法、分子標的治療
再発例	化学療法、分子標的治療、 放射線療法

📍 予防と早期発見のポイント

■ 予防

たばこを吸わないことが重要な予防策です。受動喫煙や粉じん・排気ガスへの対策も心がけましょう。

■ 早期発見

定期的に検診を受けることが大切です。せきや痰が長引くなど気になる症状がある場合は、医療機関に相談してください。

Doctor's Voice | 呼吸器センター センター長 高見 康二

肺がんは自覚症状に乏しく、気づいたときには進行していることも少なくありません。一方で画像検査の進歩によって早期発見が期待できます。症状の有無にかかわらず検診を受け、気になる変化があれば、早めの受診を心がけましょう。



聞いて・知って・安心へ！ 出前講座のご案内

当院の医療スタッフが地域へ伺い、医療・健康に関する講座をお届けします。



このたび当院では、地域の皆さまを対象とした「出前講座」を開始いたしました。

出前講座は、当院の医療スタッフ（医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・医療ソーシャルワーカーなど）が、自治会や地域団体、学校、施設、企業などへ伺い、医療・健康に関するテーマで講座を行う取り組みです。

地域の皆さまと顔の見える関係を築き、当院が培ってきた専門的知見や多職種連携によるケアを地域へ還元することを目的としています。

● 講座はすべて無料！

● 講座テーマは充実のラインナップ！

お申し込み・詳細情報は
当院ホームページをご覧ください。

詳細はこちら



大阪医療センターへのアクセス

▶ 公共交通機関をご利用の場合

- Osaka Metro(大阪メトロ)
中央線・谷町線「谷町四丁目」駅11号出口すぐ
- 大阪シティバス 62系統
大阪駅 ⇄ 住吉車庫前「国立病院大阪医療センター」下車

▶ お車で越しの場合

- 阪神高速(東大阪線・東行き)：「法円坂ランプ」出口すぐ 上町筋を右折
- 一般道：上町筋と中央大通りとの交差点南西角



独立行政法人 国立病院機構 **大阪医療センター**
NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION OSAKA NATIONAL HOSPITAL

住 所 〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日 年末年始(12月29日～1月3日)

代表電話番号 **06-6942-1331**

再診予約番号 **06-6946-3519** (受付:平日午後1時～4時)

